

（現状・課題）

5年間で基幹的農業従事者は23%減少しており、また、40代以下の新規就農者は親元就農者の減少により20%減少している。

我が国の農業従事者は65歳以上が7割以上、40代以下が1割とアンバランスな状況である。新規就農者の定着が進まない要因として、新規就農者が抱える技術面・経営面での様々な課題について、県・市町村等の地域の関係機関のサポートが不足しており、また、必要な初期投資も行われていないことから、新規就農者の着実な経営発展を図っていくことが必要。

（現状・課題を示すデータ）

- ・基幹的農業従事者数
（H27：176万人 → R2：136万人）
- ・40代以下の新規農業者数
（H27：2.3万人 → R2：1.8万人）
- ・基幹的農業従事者の年齢
（65歳以上：95万人、49歳以下：15万人）

インプット → アクティビティ → アウトプット → アウトカム（短期） → アウトカム（中期） → インパクト


予算
（百万円）
R4:23,605
※ R4新規

- ①資金面の支援
就農に向けた研修資金、親元就農を含む経営開始時の投資を基本とする経営開始資金、雇用就農の促進のための資金の交付の取組を支援（補助率：定額等）
- ②技術面の支援
伴走機関等による研修向け農場の整備、新規就農者への技術サポート、農業大学・農業高校等における農業教育の高度化等の取組を支援（補助率：定額等）
- ③人材の呼び込み等の促進
職業としての農業の魅力伝えるための情報発信、就農に関する情報の一元化や相談体制の強化等を支援（補助率：定額等）


- ①本事業の支援を受けた青年新規就農者数
（見込み）
【R4】6,250人
- ②本事業の支援を受けた研修機関等における研修者数
- ③就農相談件数等


- ①支援終了後1年経過時点で就農している者の割合


- ②就農への関心が高まったと回答した者の割合


- ④40代以下の農業従事者数


世代間バランスのとれた持続可能な農業就業構造の実現

 支援終了後1年経過時点で就農している者の割合
（年度目標：80%）

 就農への関心が高まったと回答した者の割合
（年度目標：80%）

 40代以下の農業従事者数
（R5年度目標：40万人）